



TITLE:

# 泌尿器科領域におけるIbunac錠の 応用

AUTHOR(S):

福田, 泰久

---

CITATION:

福田, 泰久. 泌尿器科領域におけるIbunac錠の応用. 泌尿器科紀要 1969, 15(4): 278-271

ISSUE DATE:

1969-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119987>

RIGHT:

## 泌尿器科領域における Ibunac 錠の応用

神戸労災病院泌尿器科  
福田 泰久

## USE OF IBUNAC IN UROLOGY

Yasuhisa FUKUDA

From the Department of Urology, Kōbe Rōsai Hospital

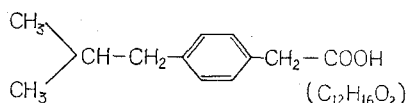
Ibunac was administered to 30 patients with various urological diseases to relieve pain and inflammation. It was effective in 12, somewhat effective in 14 and ineffective in 4 cases. Slight side effects were observed in two patients.

## 緒 言

非ステロイド・非ピリン系の解熱、鎮痛、抗浮腫剤の開発は目ざましいものがあり、臨床的に多数使用されている。

今回、非ステロイド・非ピリン系の解熱、鎮痛剤である Ibunac 錠(科研薬化工)を泌尿器科領域の各疾患に使用したのでその成績を報告する。

Ibunac 錠は Ibufenac 末を1錠中 250mg 含有する白色糖衣錠で、化学名を 4-isobutyl phenyl acetic acid と称する新非ステロイド、非ピリン系の消炎・鎮痛・解熱剤で、つぎの構造を有する。



本剤の特長は

1. フェニル酢酸を母体とした新しいタイプの非ステロイド、非ピリン系の消炎、鎮痛、解熱剤である。
2. 動物実験による薬理作用はきわめてすぐれており、アスピリンに比べ2～4倍強い鎮痛作用および抗炎症作用、4倍強い解熱作用を有する。
3. 臨床試験においても、アスピリンの半量で同等の効果がえられる。
4. 経口投与後すみやかに吸収されるので、短時間で炎症の消退、疼痛の緩解、解熱などの種々の臨床症

状の改善をもたらし、すぐれた治療効果を発揮する。

5. 他種製剤で効果のみられない場合あるいは他種製剤の副作用が強い場合、本剤で有効と考えられる症例も多い。また、副腎皮質ホルモン剤の減量も期待できる。

6. 副作用の程度および頻度はきわめて少なく、長期連用にも適している。

7. 耽溺性、習慣性がなく、連用によっても効果の減弱はみられない。

## 対象および投与法

泌尿器科外来を訪れた30例の患者、すなわち、Table 1 に示すごとく、男子24例、女子6例で、疾患別にみれば、急性膀胱炎4例、膀胱頸部炎2例、慢性膀胱炎1例、急性尿道炎1例、慢性尿道炎2例、慢性前立腺炎12例、包皮炎症1例、手術後の疼痛あるいは浮腫に対して5例および泌尿器科的検査後の疼痛に対して2例であった。

投与方法は1日3～9錠、最低3日間から比較的長期にわたり使用した。また、原則として、Ibunac 単独投与としたが、中には、nalidixic acid, sulfa 剤あるいは antibiotics などの併用療法例もあった。

## 効果の判定

患者の自覚症状を対象とし、その症状の消失したものを有効、軽快したものをやや有効および不変のものを無効とした。また、包茎手術などの術後のものに対しては、他覚的所見も考慮に入れた。

Table 1

症例	性	年齢	病 名	症状または 使用目的	投与量		投 与 後 症 状	効 果	副作用	併 用 薬 剤
					1日量	日数				
1	女	54	急性膀胱炎	残尿感	6錠	7日	残尿感(+)	無 効	(-)	Wintomylon
2	"	33	"	残尿感 排尿痛	6 "	3 "	両症状ともやや軽快	やや有効	腎部搔 痒感	Urocydal, Contol
3	"	28	"	残尿感 頻 尿	6 "	7 "	頻 尿(-) 残尿感(+)	"	(-)	Wintomylon
4	"	41	"	排尿痛 尿混濁	6 "	5 "	排尿痛(-) 尿混濁(+)	"	(-)	
5	男	41	膀胱頸部炎	残尿感 頻 尿	6 "	21 "	5日目より軽快する も消失せず	"	(-)	
6	女	45	"	頻尿, 不快感 残尿感	6 " 3 " 6 "	7 " 7 " 14 "	5日目より各症状と れる	有 効	(-)	
7	男	37	慢性膀胱炎	残尿感 会陰部痛	6 " 9 "	14 " 21 "	症状軽快するも中止 により悪化	やや有効	(-)	
8	"	33	急性尿道炎	尿道よりの分 泌物と搔痒感	3 "	12 "	(-)	有 効	(-)	
9	"	37	慢性尿道炎	尿道の搔痒感	6 "	14 "	搔痒感(+)	無 効	(-)	Urocydal
10	"	39	"	尿道の不快感	6 "	14 "	7日目より不快感減 少	やや有効	(-)	
11	"	46	慢性前立腺炎	残尿感	6 "	18 "	4日目より減少し14 日目より消失	有 効	(-)	
12	"	27	"	会陰部の疼痛	6 "	18 "	6日目より軽快	やや有効	(-)	Wintomylon
13	"	54	"	会陰部の不快 感	6 "	7 "	(+)	無 効	(-)	
14	"	36	"	排 尿 後 痛	6 "	14 "	7日目より疼痛とれ る	有 効	排ガス多 くなる	
15	"	32	"	会陰, ソケイ 部の不快感	6 " 3 "	7 " 40 "	7日目より症状とれる も中止にて軽度(+)	"	(-)	
16	"	40	"	残尿感	6 " 3 "	7 " 14 "	5日目より消失	"	(-)	
17	"	29	"	残尿感, 両ソ ケイ部痛	6 "	4 "	疼痛消失	やや有効	(-)	
18	"	33	"	残尿感 腰 痛	3 "	7 "	両症状軽快	"	(-)	
19	"	37	"	残尿感	6 "	4 "	軽度消失	"	(-)	
20	"	45	"	残尿感	6 " 3 "	14 " 14 "	残尿感やや軽快	"	(-)	Urocydal
21	"	19	"	両ソケイ部痛	3 "	21 "	疼痛軽快	"	(-)	
22	"	35	"	排尿痛, 残尿 感	6 "	7 "	両症状とも軽快	"	(-)	
23	"	26	包 皮 炎	包皮の発赤腫 脹	6 "	7 "	両者消失せず	無 効	(-)	
24	"	26	包 茎	包茎手術後の抗 浮腫, 鎮痛に	6 "	7 "	浮 腫(-) 疼 痛(-)	有 効	(-)	cp 1g 3日
25	"	22	"	"	6 "	7 "	"	"	(-)	cp 1g 3日
26	"	20	"	"	6 "	7 "	"	"	(-)	cp 1g 3日
27	"	19	"	"	6 "	7 "	"	"	(-)	cp 1g 3日
28	"	27	精管結紮術後	抗浮腫鎮痛に	3 "	7 "	"	"	(-)	Sulfa 剤 2g 3日
29	"	60	膀胱鏡検査後の疼痛		2 "	頓用	服用後60分で消失	"	(-)	
30	女	19	逆行性腎盂撮影後の疼痛		2 "	頓用	疼痛軽快	やや有効	(-)	

## 臨床使用成績

Table 1, 2 に示すごとく, 30例中, 有効12例, やや有効14例, 無効4例で, 有効率は86.7%であった.

Table 2

疾 患 名	有 効	やや有効	無 効
急性膀胱炎		3	1
膀胱頸部炎	1	1	
慢性膀胱炎		1	
急性尿道炎	1		
慢性尿道炎		1	1
慢性前立腺炎	4	7	1
包皮術後			1
手術後	5		
検査後	1	1	
計	12	14	4

使用した症例中, 急性疾患は5例で, 有効1例, やや有効3例, 無効1例であった. それに比して, 慢性疾患, 特に慢性前立腺炎患者では自覚症状の消退が目立ち, 有効4例, やや有効7例, 無効1例という良好な結果をえた. また, 包茎手術, 精管結紮術に対する浮腫, 疼痛を予防するために5例に使用したが, 全例とも著明な浮腫, 疼痛は認められず有効であった. その他, 泌尿器科的検査において, 疼痛を訴えることが多いが, わずか2例ではあるが, 本剤2錠頓用にて服用せしめたところ1例は60分後に消失, 1例は疼痛の軽快を認めている.

## 副 作 用

長期間投与した症例でも, 著明な副作用は認められなかった. 1例に臀部の搔痒感を認めたが, 他剤との併用のため, 本剤の副作用とは断定しえない. また, 1例に排ガスの増加を認めたが, 胃腸障害などは訴えなかった.

## 考 按

近年, 種々の非ステロイド・非ピリン系の消炎, 解熱, 鎮痛剤が開発され, 臨床的にも, 単独療法あるいは化学療法剤との併用療法により, 大いにその効果を發揮している. しかし, フェニル酢酸を母体とした新しいタイプの非ステロイド・非ピリン系の消炎, 解熱, 鎮痛剤である Ibunac 錠の泌尿器科領域における使用成績の報告は数少ない. そこで, 本剤を各種の泌

尿器科疾患を有する患者に単独療法を主とし, 一部化学療法剤との併用療法を試みた. 臨床使用症例30例中, 最も効果があると思われたものは, 慢性感染症とくに慢性前立腺炎および術後に生ずると予想される浮腫, 疼痛に対する予防として投与した症例であった.

すなわち, 慢性前立腺炎は各種の化学療法剤や局所療法, 精神安定剤の投与にても, がんこな症状の訴えがある. このような患者12例に対して, 10例は単独療法, 2例は化学療法剤併用を行ない, 自覚症状を中心にして経過を観察したところ, 自覚症状消失4例, 軽快7例という良好な結果をえた. ところが, 投与日数よりみれば, 14日以上投与した症例が7例もあり, 適切な化学療法剤と併用すれば, よりいっそうの効果が期待できたとと思われる. また, 後者に関しては, 包茎手術などの術後の浮腫は直接観察できる. そこで, 包茎手術, 精管結紮術後の5例に対して浮腫, 疼痛予防のために本剤と抗生物質あるいは sulfa 剤との併用療法を施行したが, 著明な浮腫, 疼痛を認めず, 有効なことが判明したが, 包皮の高度の発赤, 腫脹をきたした包皮炎の1例では, 本剤の単独療法は無効で, 他の薬剤との併用療法が望まれた.

しかし, 全体としては, 有効12例, やや有効14例, 無効4例, 有効率86.7%で, 良好な成績をえ, 泌尿器科領域の各種の疾患に対して, 単独あるいは化学療法剤との併用療法として使用するに値すると思われる.

本剤の副作用に関しては, 過去, 肝障害と血尿酸値の上昇の2つが指摘されているのであるが, 頻度はごくまれであると報告されている. 今回投与した30例中2例に軽度の副作用すなわち1例は臀部の搔痒感, 1例は排ガスの増加をみた. しかし, 長期にわたり使用した症例でも, 副作用は何らみとめられなかった.

## 結 語

1) フェニル酢酸を母体とした新しいタイプの非ステロイド・非ピリン系の消炎, 鎮痛, 解熱剤である Ibunac 錠を泌尿器科領域の各種の疾患患者30例に単独あるいは化学療法剤との併用療法を行なった.

2) その成績は有効12例, やや有効14例, 無効4例で有効率は86.7%であった。

3) 副作用は2例に軽度のものが認められた。

4) 本剤は, 泌尿器科領域の各種の疾患に単独あるいは化学療法剤との併用療法として使用

できる。

## 文 献

1) Ibunac 錠文献集。

2) 茂手木皓喜：中外医薬，18：122，1965。

(1969年1月27日受付)